

主体的に学ぶ子をめざして

— 個が生きる学習形態の工夫 —

低学年	中学年	高学年
<ul style="list-style-type: none"> ・ 操作活動を通して自ら課題を解決しようとする子 ・ 自分の言葉で説明できる子 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既習事項と結びつけながら、自分なりの方法で解決しようとする子 ・ 自分の考えを、相手に分かるように説明できる子 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既習事項をもとに、課題をよりよい方法で解決しようとする子 ・ 自分の考えを、筋道立てて分かりやすく説明できる子

仮説 1	仮説 2	仮説 3
<p>課題を解決するために、個が生きる算数的活動を工夫していけば、主体的に追求していく子になるだろう。</p>	<p>お互いの考えを表現し合い、認め合うような場を設定すれば、主体的に学ぶ楽しさと充実感を味わうことができるだろう。</p>	<p>学ぶ意欲につながる評価の生かし方を工夫すれば、主体的に学ぶ意欲が育つであろう。</p>

仮説検証のための手だて		
1 学習形態を生かした算数的活動の工夫	2 個が生きる学び合いのある学習活動	3 個が生きるための指導と評価
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 習熟度を考慮した算数的活動の工夫(そうさコーナー) ◆ 低・中・高学年の算数的活動の系統化 ◆ 発展的・補充的な学習内容の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 低・中・高学年ごとの学び合いの場の系統化 ◆ 個が生きる学習形態の工夫(トークコーナー) ◆ 習熟度別による学び合いの工夫 ◆ よさを認め合うための工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ レディネステストにおける児童のつまずきの吟味 ◆ 学び合いによる児童の変容 ◆ 板書計画・座席指導評価表の活用

